



市内に助産院を開業する

野口 智美 さん



PROFILE のぐち・ともみ (38・中原区)

大阪府出身。26歳の時に御前崎市へ移り住み、牧之原市内の病院に8年間勤務。2009年、白羽地区に「おはな助産院」を開業。

出産の感動をもう一度

市内に助産院を開業する野口さんに開業の経緯を聞いた。

「3人目を授かったときに自宅出産をしたいと思いました。2人目までは、妊娠中は、何かあれば薬を飲んだりして、コントロールしていくような妊婦生活でした。3人目を授

えると思います」と出産への思いを語る。

野口さんは、おはな助産院で出産した母親たちからの産後の気持ちを綴った手紙を大切に保管している。手紙には、一人一人のお産に対する深い思いが記されている。読むたびに感動に触れることができ「助産師になって良かった」と実感できるという。

気軽に相談できる存在に

「助産院を開業して、出産に対して今まで以上に深い関わり方ができて良かったと思います。助産院を訪れてくれるお母さんたちと家族みたいなお付き合いができて、自分はおばあちゃんみたいな感覚になり、赤ちゃんが退院する日は寂しくなってしまうこともあります。今後も出産や育児に悩むお母さんたちが気軽に相談できる存在であり続けたい」と願う野口さん。

「いい出産をする」と、もう一人産みたいと思うのです。私も、もう少し若かったらあの感動をもう一度味わいたいという気持ちがあります。助産院で産む人は、子どもが4人以上いる人も多いですよ。みんながいい出産をしてくれれば、きっと子どもの数も増

少子化問題を抱える現在、出産や育児に関する悩みを気軽に相談できる地域の助産院の存在は、お母さんたちにとって強い味方になりそうです。